

万葉の里味真野苑

比翼の丘 相聞歌碑

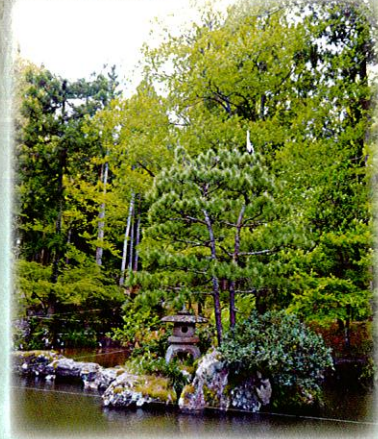
二人の切なくも情熱的な秀歌が刻まれた歌碑が、小高い比翼の丘に向かい合って建っています。著名な万葉学者犬養孝氏が揮毫しました。

君が行(ゆ)く 道の長手(ながて)を練(く)り
 畳(たた)ね 焼き滅(ほ)さむ天(あめ)の火(か)も
 狭野弟上娘子 (あなたの行く味真野までの長い道のりを手練りよせて畳んで焼き滅ぼしてくれようかな天の火があったらよいのに。そうすればあなたは流されてゆかずに済むのに)



塵泥(ちりひじ)の 数にもあらぬ我故(われゆえ)に
 思(おも)ひわぶらむ妹(いも)がかなしき
 中臣宅守 (塵や泥のような物の数でもない私ゆえに、今ごろ落胆しているであろうあなたがいとおしくならない。)

連理の松 上段の池の小島に生える、二つの幹がくっつき、寄り添って天をめざす松の木(前述の連理の枝を由来としています。)



味真野 街道をゆく巻

約一三〇〇年前の奈良時代、聖武天皇のころ、帝に使える中臣宅守と女官狭野弟上娘子が恋に落ち結びました。ところが、ほどなく勅断が下り宅守は味真野に流されたのです。理由は分かっていませんが、引き離された二人は別れを悲しみ、情熱的な恋の歌を贈り交わしました。その相聞歌が、万葉集(巻一五)に六三首残されており、味真野苑には代表的な一五首を刻んだ歌碑が立ち、訪れる人を万葉のロマンに誘います。

比翼の丘 「天にあっては比翼の鳥となり、地にあっては連理の枝とならん(天上では二羽一体で飛ぶ比翼の鳥に、地上では二本の枝がくっついた連理の枝となろう)」。これは、中国唐代の詩人白居易(白樂天)の長編叙事詩「長恨歌(ちやうごんか)」の中の有名な一節で、安祿山の乱が起きて都落ちする玄宗皇帝が最愛の楊貴妃に語ったといわれています。「比翼の鳥」は一眼一翼(二説には、雄が左眼左翼で、雌が右眼右翼)の伝説上の鳥で、地上ではそれぞれに歩くが、空を飛ぶ時はペアになって助け合わなければならないことから、仲のいい夫婦を「比翼の鳥」に例えるようになったといわれています。

万葉菊花園

北陸を代表する秋のイベント「たけふ菊人形」を彩る、豪華で色彩豊かな菊の栽培をしています。園内には、キク科の植物を楽しめるガラス温室、四季の花が楽しめる花壇や花時計があります。体験棟と展示室では、花をテーマにした講習会や写真展、絵手紙や美術展、さらには珍しい植物の展示会なども開かれます。

開館時間 午前9時から午後5時(入園は午後4時半まで)
 休園日 月曜日(祝日の場合は開館)/祝日の翌日
 12月29日から1月3日
 研修室・体験室使用料 有料です。詳しくは万葉菊花園までお尋ねください。
 入園料 無料
 問合せ 万葉菊花園 ☎0778-27-7800
 〒915-0031 越前市余川町22-96-1



たけふ菊人形

北陸の秋の風物詩「たけふ菊人形」の歴史は古く、1952年に始まりました。毎年10月初旬から11月初旬に開催。
 ・菊人形の展示
 ・2万株を超える菊花
 ・OSK日本歌劇団グランドレビューショー
 ・バイキング、大型遊具のある遊園地
 ・きくりん市場やフードコート
 楽しいイベント盛りだくさん、一日楽しめます。

会場 越前市武生中央公園
 問合せ たけふ菊人形まつり実行委員会 ☎0778-21-0175
 越前市にぎわいづくり課 ☎0778-22-3007
 観光・匠の技案内所 ☎0778-24-0655

